

SFY10031

号, 照 立 新

公開実用 昭和64-30308

④ 日本国特許庁(JP)

⑤ 実用新案出願公開

⑥ 公開実用新案公報(U)

昭64-30308

⑦ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑧ 公開 昭和64年(1989)2月23日

A 41 D 3/04
13/00N-7150-3B
A-7150-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑨ 考案の名称 送風機付合羽

⑩ 実 願 昭62-125066

⑪ 出 願 昭62(1987)8月17日

⑫ 考 案 者 石 原 松 之 助 静岡県引佐郡三ヶ日町佐久米299-1

⑬ 出 願 人 石 原 松 之 助 静岡県引佐郡三ヶ日町佐久米299-1

⑭ 代 理 人 弁護士 角田 源次

(2)

実開昭64-30308

明 細 書

1. 考案の名称

送風機付合羽

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 合羽の後身頃に送風機を入れる孔をあけ、その孔の縁に設けた紐通しにゴム紐を通し、送風機を前記孔に入れ、前記ゴム紐の弾力で送風機が合羽に固定され、前身頃に前身頃を閉閉するためのチャックが取付けられ、裾縁に裾を閉じるための腰紐がつけられていることを特徴とする送風機付合羽。

3. 考案の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

本考案は着用した合羽の中に外気を入れるための送風機を合羽に付けた送風機付合羽に関するものである。

(ロ) 従来の技術

一般に合羽は雨天の時に着用するものであるが最近合羽の使用範囲も広くなり、農家では農薬液を散布するときにも着る。農薬液を散布すると

(1)

76

実開 64-30308

(3)

実開昭64-30308

公開実用 昭和64-30308

きに、降り懸かる農薬から人体を守るためには合羽はなくてはならない保護具の一つである。

(ハ) 考案が解決しようとする問題点

合羽は薬液を通さないので、農薬を散布する時に合羽を着ていれば農薬から身体を完全に防護することができて安心である。しかし、その反面、通気がないので、夏期や外気温の高い時に合羽を着て作業すると身体が蒸れて汗をかくようになる

例えば蜜柑、梨、かきなどの果樹は夏期の炎天下で消毒されることが多く、また施設園芸の菊などは害虫駆除の消毒作業が温室内で行なわれる。このようなときに合羽を着用しなければならないので、発汗作用が旺盛になり疲労が激しくて作業を長時間続けることができず、作業能率が上がらないという欠点がある。

(ニ) 問題点を解決するための手段

本考案は上記従来の合羽の欠点をなくすために合羽の中へ空気を強制的に通すようにして合羽の中の蒸れをなくすことができるようにした送風機付合羽を提供しようとするものである。

(4)

実開昭64-30308

本考案はモーターと羽根と円筒ケースから成る送風機を合羽の後身頃にあけた孔に孔縁の紐通しに入れたゴム紐で固定し、合羽の前身頃をチャックなどで開閉自在に閉じ、合羽の裾縁の腰紐を結んで裾縁を閉じるようにした送風機付合羽であつて、送風機で合羽内に送り込まれた空気が身体のみわりを通り一部は首まわりから、一部は袖口から出るので、汗や蒸れの発生がなくなる。なお、農薬を散布するときには風上に立つて薬液噴射ノズルを風下へ向けるのが普通であり、従つて作業者の背部には農薬の霧が降り懸からない。本考案は送風機が合羽の後身頃に付いていて、作業者背部の空気を送風機が吸うので、農薬の混じらない清浄な空気が合羽内を通る。

(ホ) 実施例

以下本考案の実施例を図面について説明する。

合羽1は従来の合羽と同じようにビニール、ゴム生地あるいは布地にビニール、ゴムなどを引いた通気性のない防水生地で作られ、前身頃2の前立縁3にチャック4が取付けられ、裾縁5の折返

(5)

実開昭64-30308

公開実用 昭和64-30308

しに腰紐6が通されている。なお、チャック4の代りにボタン、フック、布フアスナーなどを付けてもよい。後身頃7のウエスト付近に孔8が設けられ、孔8の縁に紐通し9が設けられ、紐通し9に両端を結んで輪にしたゴム紐10が通されている。送風機11は円筒ケース12の軸心部にモーター13が固定され、モーター軸14に羽根15が収着されている。円筒ケース12の外周面には直径上の対向位置にバンド取付片16, 17が突設されていて、左右1対のバンド18, 19の各一端が夫々取着されている。バンド18, 19の各他端には両者を結着するための布フアスナー20, 21が夫々取着されている。22は半円環23が付いているクリップであつて、適当数がバンド18, 19に留められ、バンド18, 19を結着したとき半円環23が合羽1を身体に張りつかないように浮かせるので、空気の通りをよくするのに役立つ。円筒ケース12の円周上略等間隔位置には対面する1対の係合片24, 25が数対突設されている。また、円筒ケース12の周壁には

(6)

実開昭64-30308

適当数の空気孔26が設けられており、紐通し9部分が係合片24, 25間に係合されたとき、空気孔26の半部は合羽1の外側で開口して空気取入口となり、空気孔26の残りの半部は合羽1の内側で開口して空気送出口となるようになつてゐる。27はモーター13のリード線、28はスイッチ、29は電源である。

次に使用要領を説明する。ゴム紐10により縮んでいる孔8に送風機11の円筒ケース12を差し込み、紐通し9部分を係合片24, 25間に入れると、ゴム紐10の弾力で送風機11は合羽1に固定される。合羽1を着てからバンド18, 19を身体にまわし腹部で布フアスナー20, 21により結着すると送風機11の位置が一層安定するようになり、半円環23により合羽1が身体から離されるようになる。電源29を合羽1あるいはズボンのポケットに入れるなどしてチャックを閉じ、腰紐6を結んで裾縁5を閉じれば準備完了である。

スイッチ28を閉じると、外気が円筒ケース1

(7)

実開昭64-30308

公開実用 昭和64-30308

2の後端口と空気口26の外側の半部から円筒ケース/2内に入り、一部は空気口26の内側の半部から、一部は円筒ケース/2の前端口から合羽/内に送り出される。合羽/内で空気は身体のまわりを通り、最後に一部は首まわりから、一部は袖を通つて袖口から外に出ていく。

(一) 考案の効果

本考案は首と袖口を除いて閉じられている合羽内に外気が送風機により強制的に送り込まれるので、合羽内で空気が停滞することなく勢いよく身体のまわりを通り過ぎていく。従つて蒸れや発汗が起こらない。また、送風機が後身頃についているので、農薬散布時に着用しても、農薬に汚されない空気が合羽内に入り安心である。また、ゴム紐を伸縮するだけの手間で送風機を簡便に着脱することができ、格納や合羽の洗浄に便利である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は背面図、第2図は正面図、第3図は送風機の斜視図、第4図は送風機の平面図、第5図は合羽に固定され

(8)

実開昭64-30308

た送風機の正面図である。1.....合羽、4.....チャック、6.....腰紐、8.....孔、9.....紐通し、10.....ゴム紐、11.....送風機。

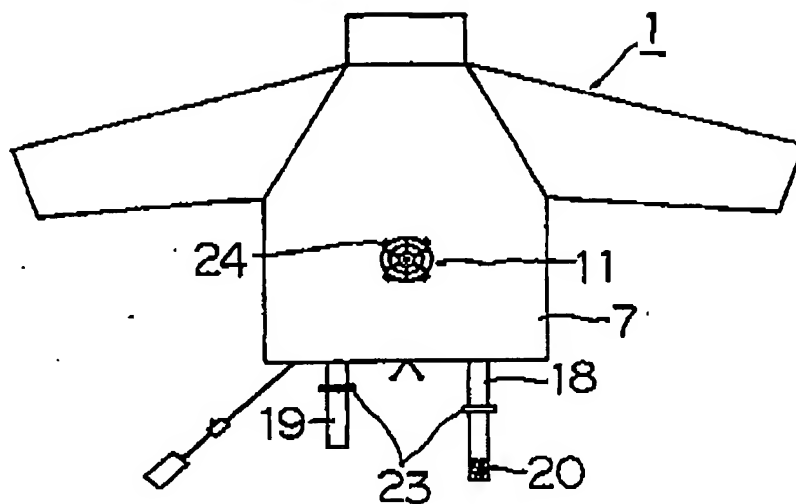
代理人 弁理士 角田 源次

(9)

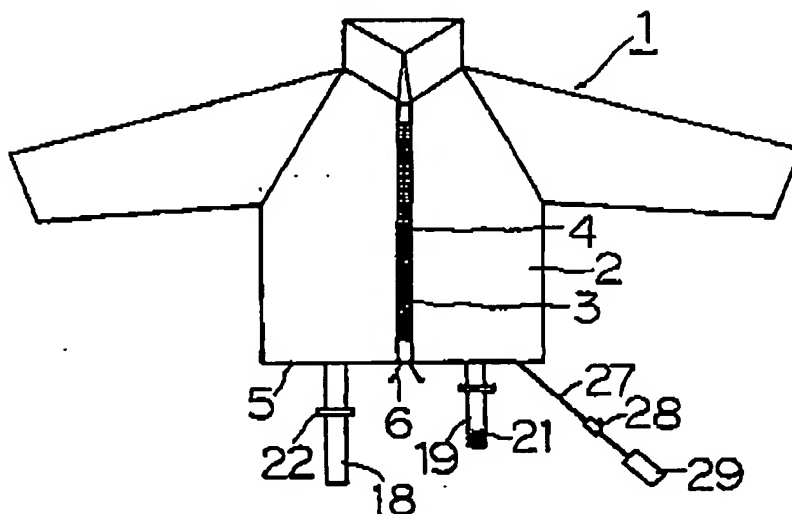
実開昭64-30308

公開実用 昭和64-30308

第 1 図



第 2 図



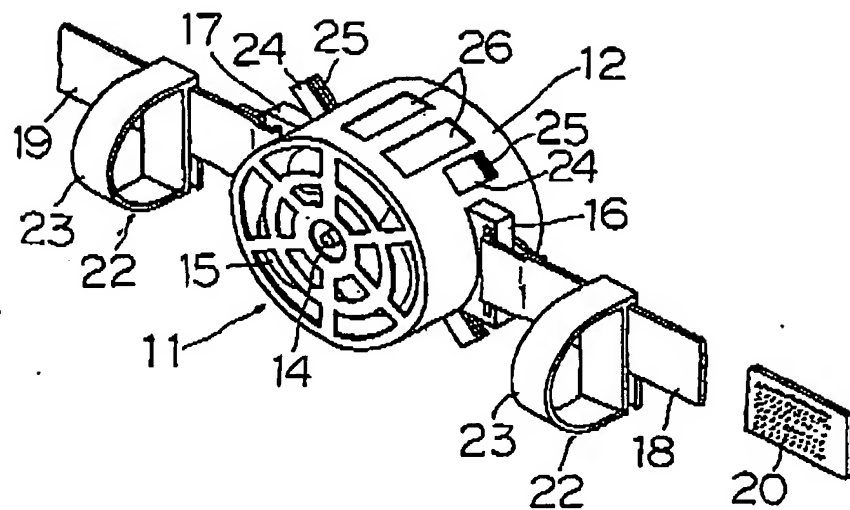
代理人 井澤士 角田 源次
実開 64-30308

83

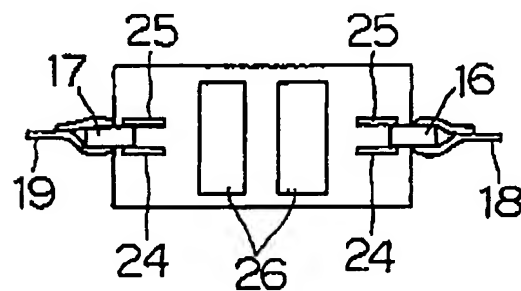
(10)

実開昭64-30308

第 3 図



第 4 図



84

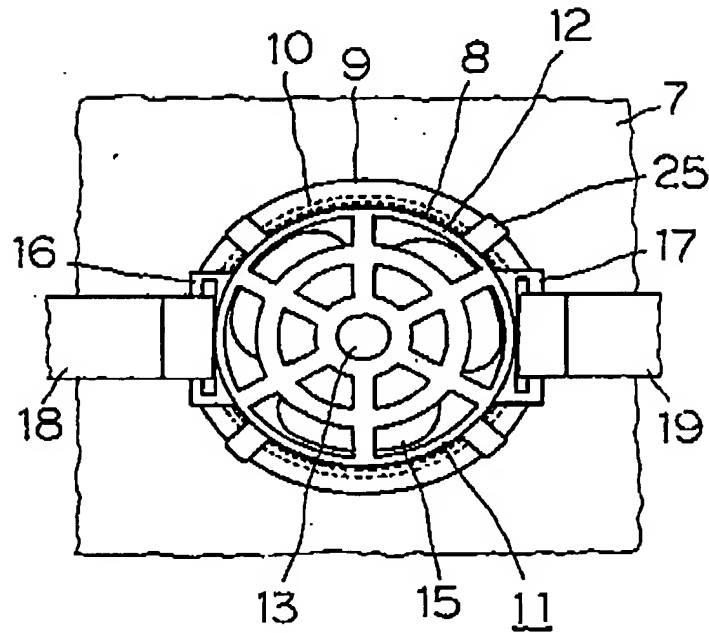
代理人 井上士 角田源次

(11)

実開昭64-30308

公開実用 昭和64-30308

第 5 図



85 実開 64-30308

代理人 弁護士 角田 源次